

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012 年 10 月 28 日

派遣者氏名（専門分野）	久岡加枝（音楽学）
-------------	-----------

派遣期間	2012 年 8 月 31 日 ～ 2012 年 10 月 1 日
------	-----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
グルジア	トビリシ	トビリシ音楽院、グルジア国立図書館、グルジア国立フォークロアセンター等

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

音楽院に研究滞在し、図書館等を利用するには、学生証と図書カードを発行してもらう必要がある。受け入れ先の教員のサインとパスポートを音楽院の事務所に提出すれば、数日で発行可能である。

しかし、グルジアの音楽文化、特に民俗音楽について調査するならば、音楽院の図書館よりも、伝統多声音楽研究センターや隣接する民俗音楽研究室の方が一次資料も含め充実している。さらに、議会図書館（<http://www.nplg.gov.ge/eng/home>）も資料が豊富である。ここには帝政期から今日までの楽譜や民俗音楽研究、音楽に関する議論が展開した新聞、雑誌が保管されており、それらは常に閲覧可能である。なお、書籍一般や新聞、雑誌、楽譜などに関しては、データベース化がかなり進んでおり、パソコンからも検索可能である。図書館を利用するには、利用者カードを発行する必要がある。パスポートがあればその日のうちに発行可能である。なお、議会図書館は1号館から5号館まであり、主な雑誌記事や学術書は2、3号館に、楽譜やソ連期の芸術音楽の録音などは5号館に保管される。なお5号館は、2、3号館がある市の中心部から少し離れた場所にある。

5号館付近には、グルジア国立文書館（<http://www.archives.gov.ge/index.php?page>）があり、主に帝政期に採譜された聖歌が保管されている。民謡に関しては、主にグルジア国立フォークロアセンター（<http://folk.ge/#>）が保管する。これらの機関の利用に当たっては、個人的な理由を説明すれば、特に必要な手続きは必要ないと思われる。

音楽関係の資料を扱う公共機関に関しては、このほかに、ソ連期の主要な作曲家の作品を保管する作曲家同盟の機関がフォークロアセンター付近にある。なお、ソ連期の作曲家の手稿譜などは、その一族が個人的に保管する場合も多いので、調査に当たっては、常に現地で情報収集を行っていく必要があるだろう。